

KEN BUNKO

[K=K] KEN 文庫

# 若おかみは ○学生!

—華の湯温泉ストーリー①—

作・絵 / KEN





私は織子

父と母が亡くなって  
祖母の元に引き取ら  
れる事になりました

でも...  
祖母の元でお世話に  
なるには  
条件がありました...



ようこそ  
いらつしやいませ  
岡田様



この子が  
女将の  
お孫さん？

ええ  
織子と  
申します

へえ  
なかなか可愛い娘  
じゃないか...  
フフフツツ

私の仕事は  
特別なお客様の……

相手をすること……

織子ちゃんは  
何色のパンティ  
穿いてるのかな？

おじさんに  
見せてくれる？

特別なお客様というの  
は子供が好きなお客様……

織子ちゃんの  
ピンクのパンティ  
可愛いねえ

織子ちゃんの……  
可愛いパンティは……  
どんな匂いかなあ？

私の様な子供の女の子を  
エッチな意味で好きな……  
お客様……

私には祖母の言いつけを

拒否する選択肢は  
ありません……

他に行く宛が  
無いから……

今日織子ちゃんが  
学校に穿いて  
行つてたパンティ  
なんだ？

ああ、  
織子ちゃんの  
恥ずかしい染みが  
付いてるねえ

恥ずかしくても我慢するしかありません……

織子ちゃんの……  
オシッコの匂い……  
オ○ンコの……  
良い匂い……

織子ちゃんの  
その可愛いワレメ  
からオシッコ出して  
るんだ？



男

夕方4時から5時  
男湯は特別なお客様  
だけの時間です

そして...  
その男湯での仕事...

織子ちゃん  
そのまま  
足を広げて

学校でも水泳の  
時間そうやって  
男子に見せ付け  
てるんでしょ?



フッフッフ

男子はみんな  
勃起して  
困るだろうなあ

クスクス

ハハハッ

ヒッヒッヒ

そのまま  
オ○ンコ広げて  
見せて織子ちゃん

私はお客様の  
言われるがまま...  
奴隷の様に従います



織子ちゃん  
水着を脱いでえ  
裸になっちゃお

トトトツ

織子ちゃん  
そこでオシッコ  
してみてくださいよ

織子ちゃんの  
可愛いワレメ

お客様は...  
私が...恥ずかしい  
事をする...!

クククツ

ウホホホツ

フフフツ

オチのチンを...

大きくくして...

喜びます...



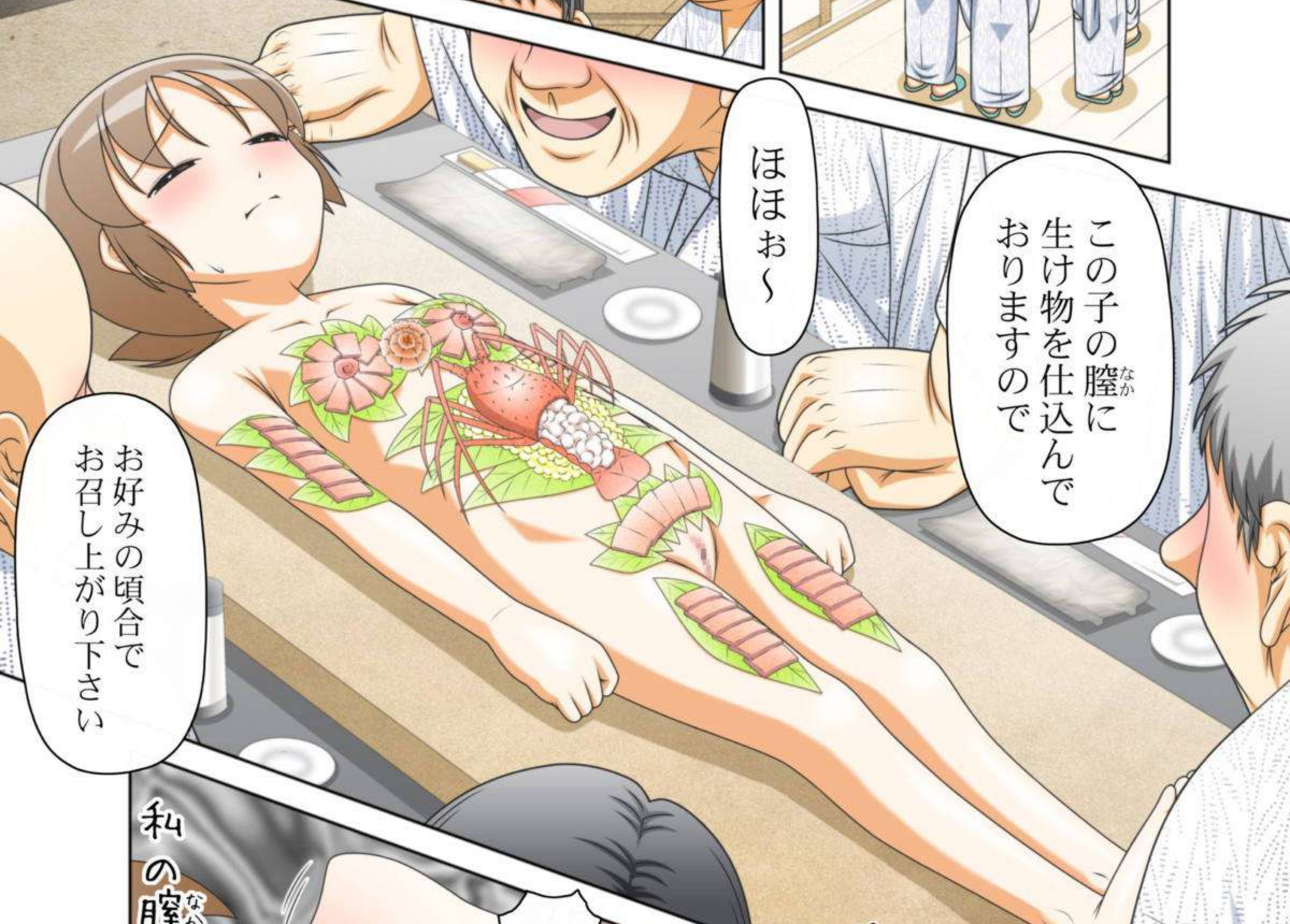


夕食の時間  
そして……

おほほほお

団体のお客様が  
いらっしやる  
ときのお仕事……

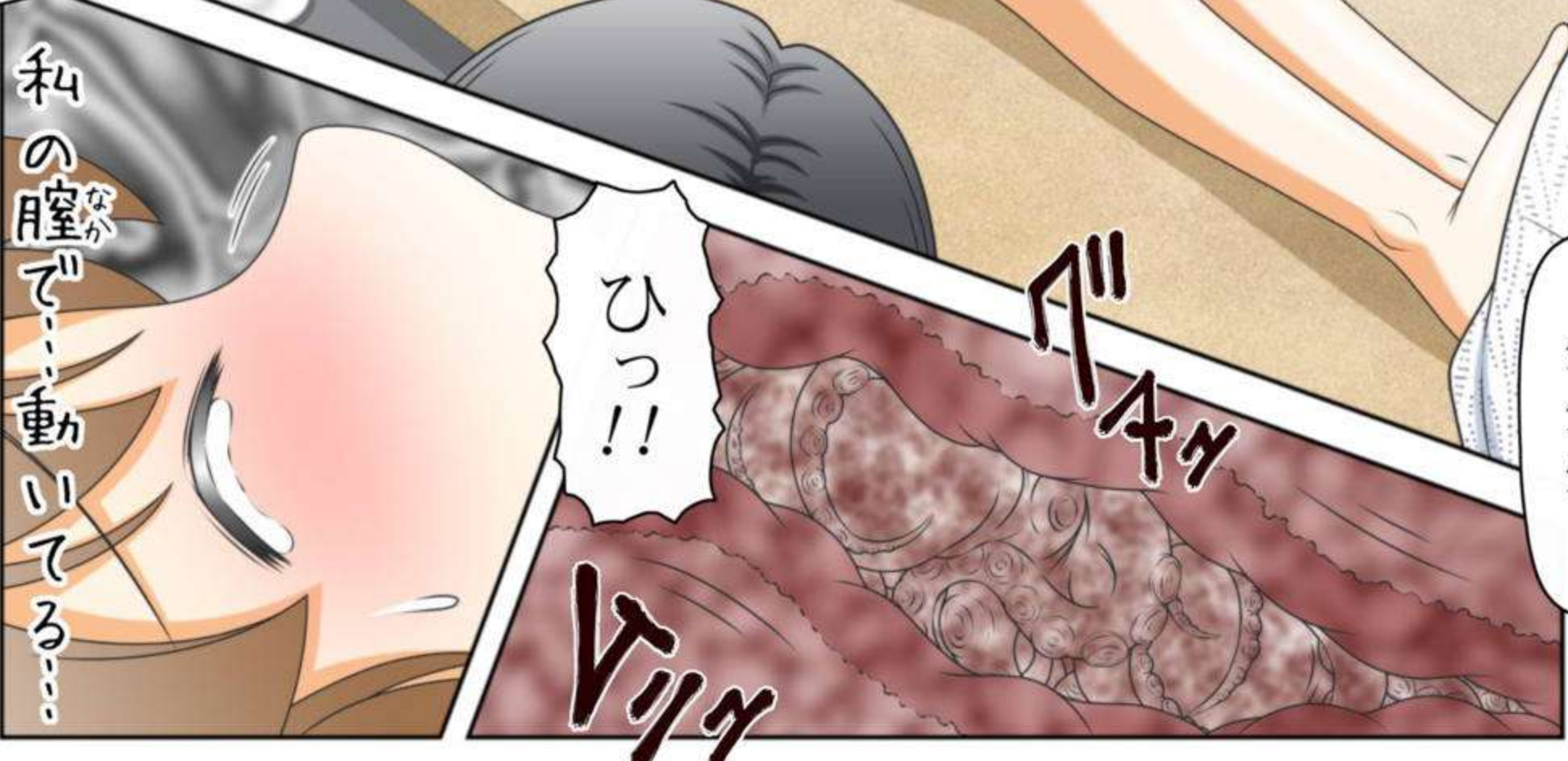
どうぞ  
ご存分にお召し  
上がり下さい



この子の腔なかに  
生け物を仕込んで  
おりますので

ほほお

お好みの頃合で  
お召し上がり下さい



私の腔なかで……動いてる……

ひっ!!

ツツ

ツツ

クククツ

それじゃ  
そろそろ産んで  
もらいましようか

織子ちゃん  
オ○ンコから出して  
くれるかなあ？

はい…

こんなことして…  
何が楽しいんだらう…

ぐっ…

いっ!!

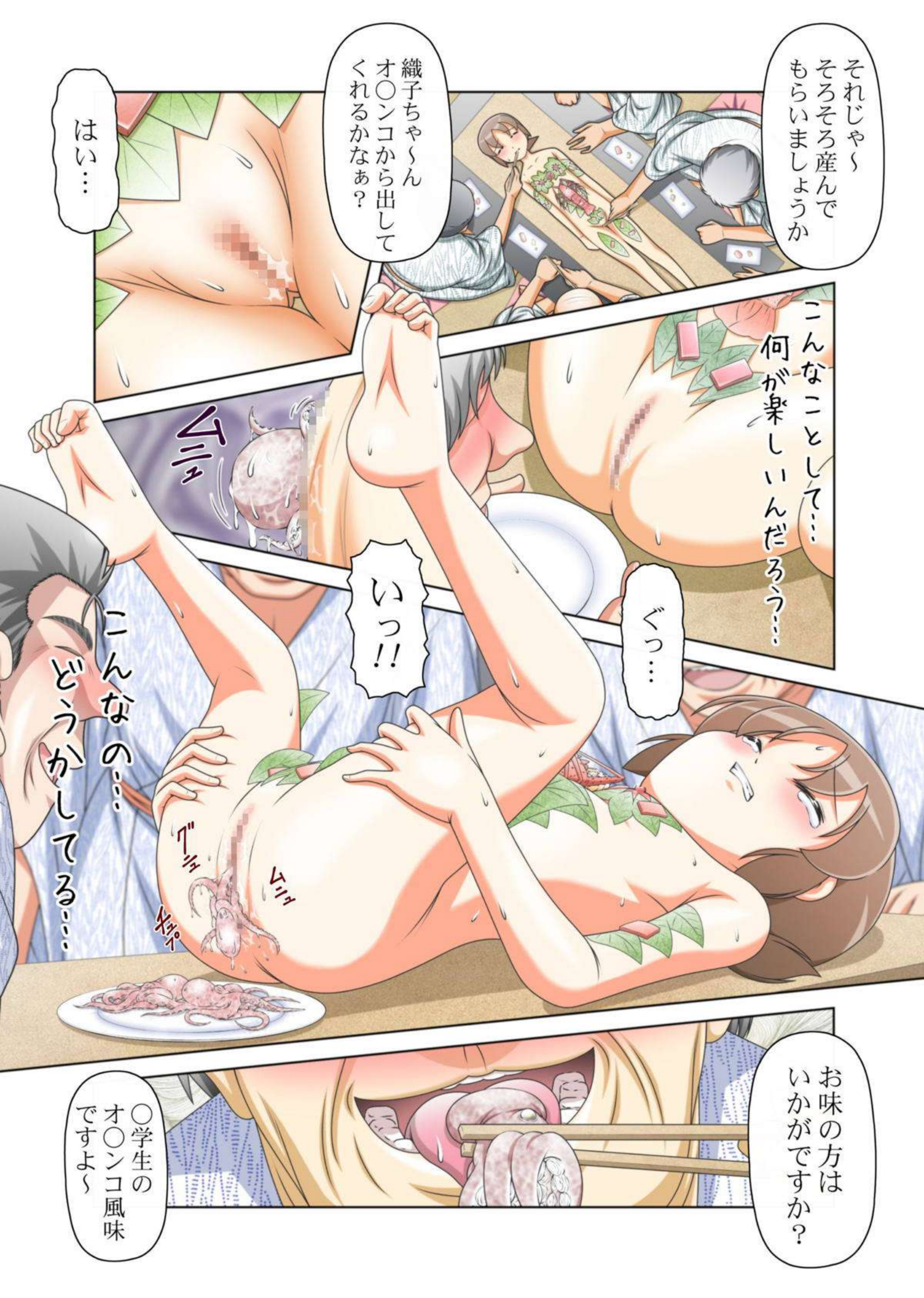
ムニャ

こんなもの…

どうかしてる…

お味の方は  
いかがですか？

○学生の  
オ○ンコ風味  
ですよ







1ヶ月前から  
ピルというお薬を  
飲まされました

それは...  
妊娠しない様に  
するための  
お薬だそうなんです...



二のお客様と...



つまり...私は今夜...



とても大事なお客様  
なので  
朝までお相手し  
なさいと...

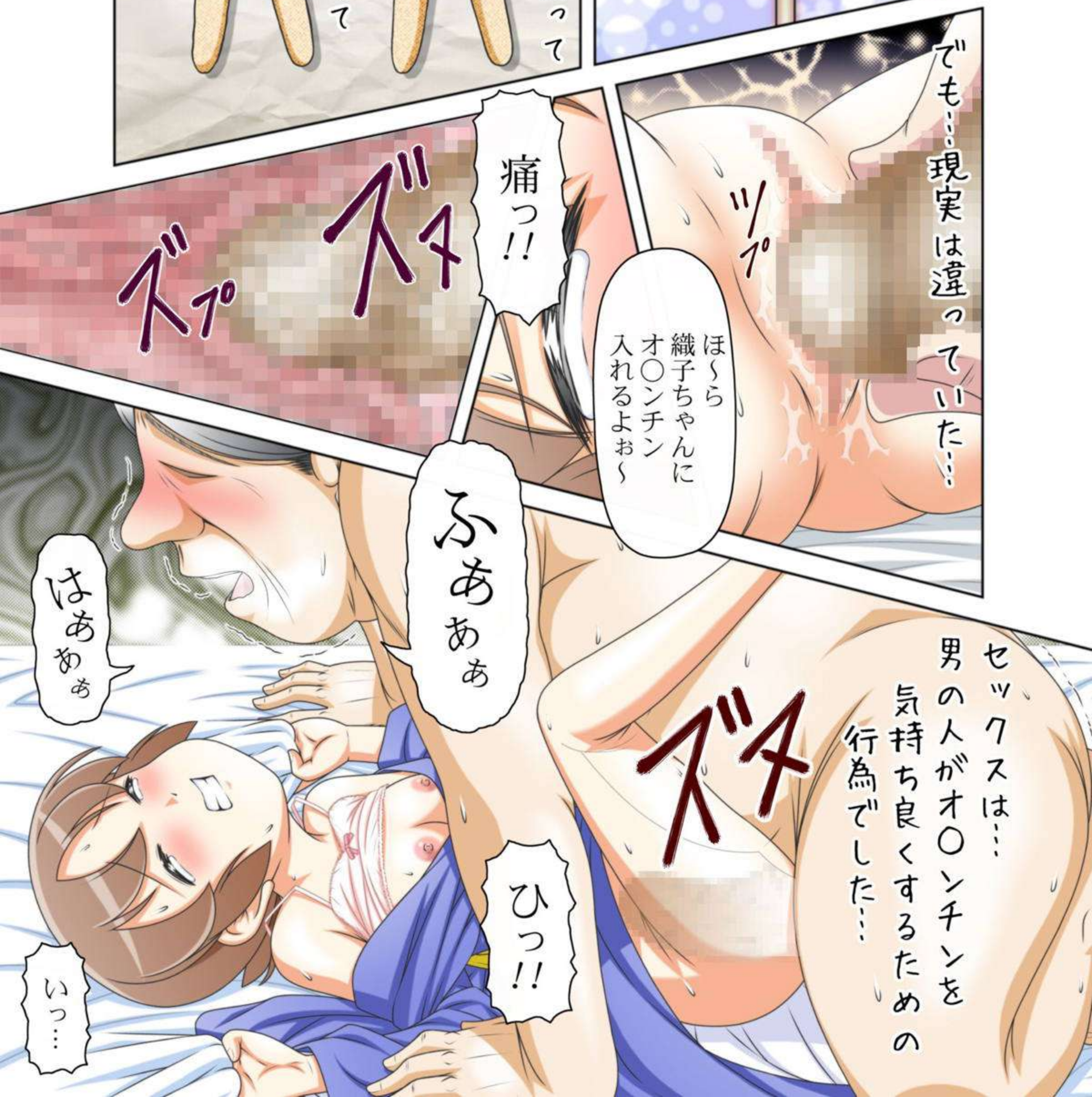
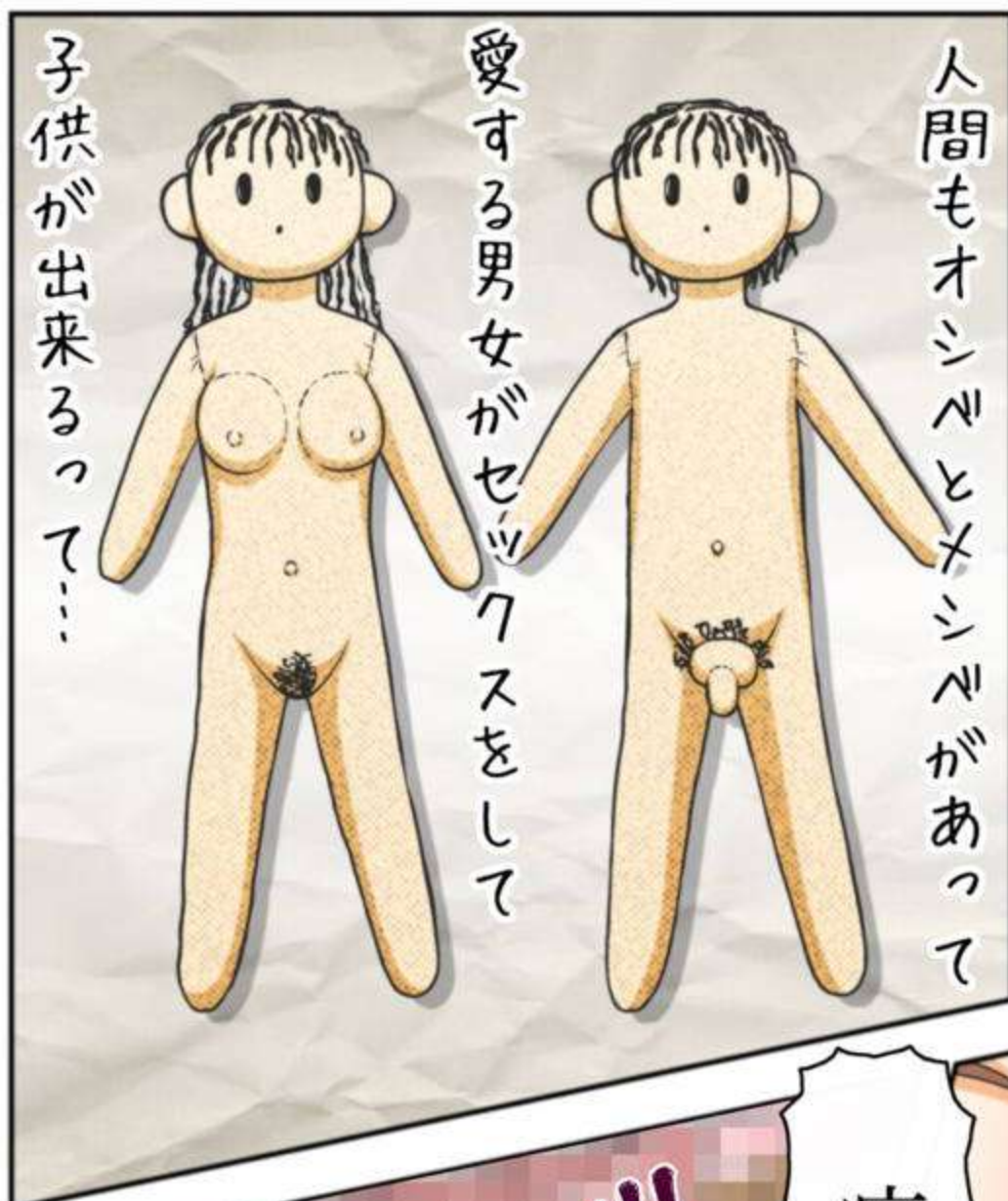


オオン...チンを  
入れる穴です...



この穴は  
何を入れる穴か  
織子ちゃんはもう  
知ってるかな？

織子ちゃんの  
ここに女の子の  
穴があるでしょ？




セックスは...  
男の人がオ○ンチンを  
気持ち良くするための  
行為でした...





濡れた股間の気持ち悪さで目が覚めた……

あれからどれくらい時間が経ったのか解らない……



私は男の人とセックスをした……  
好きな男の人でもなく……  
歳の離れたおじさんと……

これが私の……  
初めてのセックスでした……

長い……長い……  
悪夢の様な夜が  
明けて……

飯島様  
ご宿泊ご満足  
頂けましたか？

ええ  
とつても堪能させて  
もらいましたよ

そう言ってお客様は名残惜しそうに  
私の下半身を見ていた……

またのお越しを  
お待ちしております

間違った事だと  
解っていて……  
私には他にいく場所が  
無いから……

私は……  
これからもこの旅館で  
生きていかなければ  
いけません……

終劇